［様式９－１］　　福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	円町まぶね隣保園	施設種別	保育所　保育所 旧体系：　　）
評価機関名	一般社団法人　京都府保育協会		

令和２年　１月１６日

総　　評	円町まぶね隣保園は６４年間京都市中京区の円町でキリスト教保育を続け、平成３０年４月に園舎を改築した８０名定員の保育園です。 「私たちは神様からゆだねられた大切な子どもたち一人ひとりの人権を尊重し、地域の社会に仕えること」を理念にキリスト教保育の精神を通し信頼や感謝の心を育て、神様と人から愛をいっぱい受けて、子どもの心を育て、子どもたち、保護者、保育者の笑顔あふれる温かな保育園を目指しています。 「自然だいすき」をテーマに園外保育や身近な自然と触れることを大切にし、四季折々の自然に触れることで子どもたちが豊かに育っています。 「みんながおかわりしたがる園で大人気の給食レシピ」を本にして発刊し、給食とおやつを手作りし、「食」を通して心身共に豊かに成長するように工夫を凝らしています。尿検査は全クラス、歯科健診を２歳クラスから耳鼻科、眼科健診も３歳クラスから行い子どもたちの健康にも留意しています。
特に良かった点（※）	・園のホームページに園長の責任と役割、子どもに対する思いを表明し、園だよりにも毎月園長の考えや姿勢、役割、方針を記載し、職員にも、職員会議の冒頭で表明しています。 ・アレルギー対応マニュアルに沿って月一度保護者、園長、主任、担任保育士とで給食会議を行い事故防止に努めています。また、毎日、献立のアレルギーチェックを行い給食室で確認したうえで、除去食を提供しています。 ・０～５歳クラスは毎日連絡ノートで一日の保育内容や子どもの体調、喫食状況を丁寧に伝え、家庭と連携を密に取っています。また、クラス懇談や個人懇談、保育参観等で保護者と情報を共有しています。
特に改善が望まれる点（※）	・単年度の事業計画は、職員確保や事業内容の充実に向け取り組んでいますが、今後は、数値目標や具体的成果に繋がるよう工夫されると良いでしょう。また、目標達成に繋げるためにも、３～５年を見据えた中・長期計画を策定されると良いでしょう。 ・評価結果で明確になった課題について職員間で共有し、会議で検討していますが改善計画までには至っていません。今後は、改善計画を策定し取り組まれると良いでしょう。

※それぞれ内容を３点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シ―との「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

［様式９－２］

【保育所版】

評価結果対比シート

（注）判断基準「ａｂｃ」について
【平成28年度以前の基準とは異なるため、当評価結果との対比はできませんのでご留意下さい】

(a)は質の向上を目指す際の目安となる状態、(b)は多くの施設・事業所の状態、(c)はb以上の取り組みとなることを期待する状態、に改定されました。改訂後の評価基準に基づいた評価では(b)が一般的な取り組み水準となり、従前に比べて(b)の対象範囲が広がります。また、改正前に(a)であった評価項目が改正後の再受診で(a)を得られなくなる可能性もあります。

受診施設名	円町まぶね隣保園
施設種別	保育所
評価機関名	一般社団法人　京都府保育協会
訪問調査日	令和2年1月16日

Ⅰ　福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	通番	評　価　細　目			評価結果	
						自己評価	第三者評価
Ⅰ－1 理念・基本方針	Ⅰ－1－（1） 理念、基本方針が確立・周知されている。	1	①	理念、基本方針が明文化され周知が図られている。		B	A

［自由記述欄］

・保育理念、保育方針はホームページ、園の要覧に明記し、職員、保護者には要覧を配布しています。また、法人の理念について職員は採用時、新任時、新任人権研修で、保護者には入園時の説明会で周知しています。理念は園内に掲示し、毎月の園だよりにも掲載して周知しています。

評価分類	評価項目	通番	評　価　細　目			評価結果	
						自己評価	第三者評価
Ⅰ－2 経営状況の把握	Ⅰ－2－（1） 経営環境の変化等に適切に対応している。	2	①	事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。		B	A
		3	②	経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。		B	A

［自由記述欄］

・社会福祉事業全体の動向は、京都市保育園連盟や中京区の園長会で国や京都市の動向を把握しています。また、法人の経営者会議で情報の共有や分析をしています。地域の近隣にマンションも立ちならび、子どもの人数も増えるなど、変化する経営環境も把握し分析しています。

・施設運営や事業運営を分析し、現状の分析から具体的な改善すべき経営課題を把握し、法人に報告する等法人本部と情報を共有しています。

評価分類	評価項目	通番	評　価　細　目			評価結果	
						自己評価	第三者評価
Ⅰ－3 事業計画の策定	Ⅰ－3－（1） 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	4	①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。		B	B
		5	②	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。		B	B
	Ⅰ－3－（2） 事業計画が適切に策定されている。	6	①	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が 理解している。		B	B
		7	②	事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。		B	B

［自由記述欄］

・新たな福祉サービスの拠点として、平成３０年４月に園舎を建て替え、定員割れ対策や保育士確保、さらにはそれらに伴う収支計画を見直し、課題の解決に向けて取り組んでいます。

・単年度の事業計画は職員確保や事業内容に向け取り組んでいますが、数値目標や具体的な計画に繋がっていません。今後は、目標課題の達成のためにも３～５年を見据えた中・長期計画を策定されると良いでしょう。

・事業計画は全職員参画で策定されていません。今後は、全職員で見直しができるよう環境や仕組みを整備し、次年度は職員の意見の集約・反映した事業計画を策定すると良いでしょう。

・単年度の事業計画について一部は入園説明会で説明し、行事の後はアンケートも集約しています。主な内容を分かりやすく説明した資料を作成し、配布されるとなお良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評　価　細　目			評価結果	
						自己評価	第三者評価
Ⅰ－4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組	Ⅰ－4－（1） 事業計画が適切に策定されている。	8	①	保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。		B	A
		9	②	評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。		B	B

［自由記述欄］

・年間、月間、週案の各指導計画と日案など評価反省し保育内容を見直し、行事の見直しも行っています。職員会議やクラス会議で話し合い対策を見直しています。PDCAサイクルに基づく組織的な取り組みを実施し、園全体の自己評価を行っており、第三者評価も定期的に受診しています。

・評価結果で明確になった課題について、職員間で共有し職員会議で検討しているが、改善計画の立案までには至っていません。今後は、改善計画を策定し取り組まれると良いでしょう。

Ⅱ　組織の運営管理

評価分類	評価項目	通番		評　価　細　目	評価結果	
					自己評価	第三者評価
Ⅱ－１ 管理者の責任とリーダーシップ	Ⅱ－１－（１） 管理者の責任が明確にされている。	10	①	施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	B	A
		11	②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	B	B
	Ⅱ－１－（２） 管理者のリーダーシップが発揮されている。	12	①	保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	B	A
		13	②	経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	B	A

［自由記述欄］

・施設長は園のホームページに自らの責任と役割、子どもに対する思いを掲げ、毎月の園だよりにも施設長としての考えや役割・方針を記載するとともに、毎回の職員会議の冒頭で職務内容や保育に対する姿勢を表明しています。

・法令順守の研修に参加するなど、法令を正しく理解し職員に周知しています。今後は、さらに周知できるよう遵守すべき法令をリスト化し文書ファイル等で職員が閲覧できるようにすると良いでしょう。

・保育の質の向上を目指し主任と共に年2回個人面談を行い、職員の個々の意見や目標を聞き、職員の教育、研修の充実を図る為研修計画を立てています。

・施設長は業務の改善の為、パソコンを増やし業務の効率化を図っています。また、時間単位の有給休暇制度を設定するなど働きやすい職場環境作りに努めています。

評価分類	評価項目	通番		評　価　細　目	評価結果	
					自己評価	第三者評価
Ⅱ－２ 福祉人材の確保・育成	Ⅱ－２－（１） 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	14	①	必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	B	A
		15	②	総合的な人事管理が行われている。	B	B
	Ⅱ－２－（２） 職員の就業状況に配慮がなされている。	16	①	職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	B	A

［自由記述欄］

・必要な福祉人材確保のため就職フェアや保育士養成校を訪問したり福祉人材センターを活用しています。また、人材育成のため組織作りやリーダ育成を目指したキャリアアップの取り組みを行っています。

・法人の期待する職員像を掲げ就業規則の中に「人事基準」を定めており職員に周知しています。職員の処遇は人事考課制度を策定し職員が自らの将来を描くことができるようなキャリアパス体制の仕組みを整備されると良いでしょう。

・職員の就業状況や意向調査を行い年２回の個人面談を通して意見や要望を聞き取り、心身の健康安全の確保のためワークライフバランスに配慮しながら働きやすい職場環境を整備しています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目			評価結果	
						自己評価	第三者評価
Ⅱ－２ 福祉人材の確保・育成	Ⅱ－２－（３） 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	17	①	職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。		B	B
		18	②	職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。		B	B
		19	③	職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。		B	B
	Ⅱ－２－（４） 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。	20	①	実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。		A	A

[自由記述欄]

・「職員一人ひとりの目標」を達成するため年２回職員と面談を行い、人材育成のキャリアパスの研修プログラムを活用するなど取り組んでいます。今後は、さらにそれぞれの目標や課題が達成できるよう職員一人一人が目標に向かえる環境を整備されると良いでしょう。

・園の職員の教育研修に対する基本方針、基本姿勢は策定されていますが、職員一人一人の研修計画を立案し一人一人が策定された個人の研修計画に基づき定期的に実施し、評価・見直しをされると良いでしょう。

・園は職員の教育研修計画により、経験年数や新人職員に個別的なOJTが行われ特に新人研修は法人で３日間行うなど一人一人のニーズに合わせ研修を受ける機会を設けるよう努めています。今後は、パートを含め全ての職員が参加できるよう配慮されると良いでしょう。

・受け入れ依頼があれば積極的に実習生を受け入れています。実習内容については学校側と連携し実習生受け入マニュアルに基づいて育成プログラムも整備し、５０名の高校生を受けるなど積極的に取り組んでいます。

評価分類	評価項目	通番	評価細目			評価結果	
						自己評価	第三者評価
Ⅱ－３ 運営の透明性の確保	Ⅱ－３－（１） 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	21	①	運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。		B	A
		22	②	公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。		A	A

[自由記述欄]

・園のホームページで情報を公開しています。第三者評価の結果や苦情相談を受けた後の改善内容も公表しています。また、地域交流活動として地域交流会を年1回開催するとともに、園を町内会の活動の場として提供しています。その内容はパンフレットにも明示され、地域に配布しています。

・事業計画や収支に関する情報はホームページで公表しています。公認会計士により外部監査の指導を受け適正な園運営・経営に努めています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目			評価結果	
						自己評価	第三者評価
Ⅱ－４ 地域との交流、地域貢献	Ⅱ－４－（１） 地域との関係が適切に確保されている。	23	①	子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。		A	A
		24	②	ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。		A	A
	Ⅱ－４－（２） 関係機関との連携が確保されている。	25	①	保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。		B	B
	Ⅱ－４－（３） 地域の福祉向上のための取組を行っている。	26	①	保育所が有する機能を地域に還元している。		B	B
		27	②	地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。		C	B

[自由記述欄]

・年１回地域交流会を開催し、地域の方と子どもたちと共に過ごす時を持ち交流を深めています。また、年１回、子どもたちと一緒に近隣の方々を訪問して花を家から持ち寄って感謝の気持ちを送る活動を行っています。

・依頼があれば積極的にボランティアの受け入れを行っています。その際には受け入れマニュアルに基づいて基本的な姿勢を説明するなど、より良い地域福祉活動に繋がるようオリエンテーションを実施しています。

・地域の関係機関への連絡一覧表や「必要な社会資源」をリスト化するなど職員室に分かりやすく掲示し、いつでも問い合わせに対応できるように整備されると良いでしょう。

・地域交流で月１回園庭開放を行い地域の親子が遊びに来ています。園庭開放時に子育て相談やアドバイスを市地域の活動の場として園舎も提供しています。今後は、地域の役員や関係機関とも連携し、地域のニーズを把握して講演会や研修会の開催、災害時の協力、子育て支援の充実等園が保有する機能をできるだけ還元されると良いでしょう。

・子育て相談など地域の福祉ニーズは把握しています。園内の保育活動のみに留まらず地域貢献事業など地域の住民に対する相談事業や公益的な事業活動にも目を向けると良いでしょう。

Ⅲ　適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	通番	評　価　細　目		評価結果	
					自己評価	第三者評価
Ⅲ－１ 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ－１－（１） 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	28	①	子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	B	A
		29	②	子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	B	A
	Ⅲ－１－（２） 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。	30	①	利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	A	A
		31	②	保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	B	B
		32	③	保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	B	B

［自由記述欄］

・法人の理念や基本方針に一人ひとりの人格の尊厳を尊重すると唱えるキリスト教保育を推進しています。職員会議で人権宣言の確認や法人人権研修に参加し職員全員で共通の理解を深めながら取り組んでいます。また、子どもを尊重した保育に関する基本姿勢が保育の標準的実施方法に明示されています。

・子どものプライバシー保護、権利擁護について、規程、マニュアルが整備され法人の理念にも唱えられ職員の理解のもと子どもを尊重した保育が実施されています。

・園のホームページ、要覧に理念・方針・目標、年間行事、デイリープログラムを分かり易く掲載しています。園見学希望者に対しても要覧などで必要な資料や情報を随時提供し、個別に分かり易く丁寧に説明を行っています。

・入園時に重要事項説明書や園の要覧に基づき丁寧に説明しています。保育内容や運営に関する変更がある場合には文書や掲示で周知しています。特に配慮が必要な保護者には対応マニュアルを整備し説明すると良いでしょう。

・保育中の転園、変更の場合は、保育要録だけでなく、その後の相談や担当者を記載した文書を渡すことが必要です。

評価分類	評価項目	通番	評　価　細　目		評価結果	
					自己評価	第三者評価
Ⅲ－１ 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ－１－（４） 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	33	①	苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	A	A
		34	②	保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	A	A
		35	③	保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	B	B

［自由記述欄］

・苦情解決の体制が整備されホームページや要覧にも掲載しています。意見箱や懇談会，個人懇談、クラス懇談で意見や要望、相談などその都度話し合いの場を持ち、意見の述べやすい環境を整備し、苦情の内容もフィードバックして保護者に文書で公表しています。

・苦情、相談マニュアルに基づき報告の手順、対策、検討、対応を行っています。今後は、対応マニュアル等を定期的に見直しをされると良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評　価　細　目		評価結果	
					自己評価	第三者評価
Ⅲ－１ 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ－１－（５） 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	36	①	安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	B	B
		37	②	感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、　取組を行っている。	B	B
		38	③	災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	B	B
		39	④	不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	B	A

・子どもの安心安全を守るため、ヒヤリハット、事故報告を実施し職員会議で事故防止の改善策を分析し職員間で共有しています。今後は、感染症、食中毒、アレルギー等全ての安全管理に関する責任と役割を明確にしたリスクマネジメント規程を策定し、定期的に見直しをする等、管理体制を整備するとより安全な環境をが整えられるでしょう。

・不審者侵入時の対応マニュアルに基づき、職員体制、子どもの安全確保、避難場所、避難ルートなどをマニュアル化し、警察と連携し定期的に見直しをしています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目			評価結果	
						自己評価	第三者評価
Ⅲ－２ 福祉サービスの質の確保	Ⅲ－２－（１） 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。	40	①	保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。		B	B
		41	②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。		B	B
	Ⅲ－２－（２） 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。	42	①	アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。		B	B
		43	②	定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。		B	B
	Ⅲ－２－（３） 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。	44	①	子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。		A	A
		45	②	子どもに関する記録の管理体制が確立している。		A	A

・保育理念、保育方針に従って年間、月間、週案等各指導計画を年齢別に作成し、標準的実施方法を文章化し保育を実施しています。一人一人の子どもの発達に沿って保育を行うなど、保育の方法、関わり方等基本的な事柄について職員の共通理解をもってあたるマニュアルを作成しPDCAサイクルに従って次回の保育に反映し職員会議で検討しています。見直し部分を文書化し、標準的実施方法を活用し、評価見直しを実施されると良いでしょう。

・入園前の個別面談を通して個別のニーズに合った個別計画を作成しています。個別計画が次の月に反映しているか、職員会議で評価・反省・見直しをされると良いでしょう。

・一人一人の子どもの日々の情報は報連相ノートで共有し、職員会議で報告記録をしています。個別の指導計画は統一化を図り。個人情報保護規程の定めにより、保管方法や場所も適切に管理されています。

A－１　保育内容

評価分類	評価項目	通番	評　価　細　目		評価結果	
					自己評価	第三者評価
A－１ 保育内容	A－１－（１） 全体的な計画の編成	46	①	保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭 及び地域の実態に応じて全体的な計画を編成している。	A	A
	A－１－（２） 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	47	①	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	B	B
		48	②	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	B	B
		49	③	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	B	A
		50	④	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	B	A

［自由記述欄］

・保育の全体的計画は保育理念、保育方針、目標に基づき年齢ごとの発達を基本とし全職員参画の下、年１回評価・反省を行い編成されています。

・平成３０年４月に新園舎になり室温は適正に温度設定され、床暖房で裸足保育をしています。オープンスペースの保育室で０、1歳児が同一空間にそれぞれが生活しています。一人一人がくつろいだり落ち着ける場所を工夫されると良いでしょう。

・子ども一人一人の発達や家庭状況を考慮して個別指導し、子どもの状態に応じて対応するよう心掛けています。０歳児と１歳児が同じフロアで過ごす時はそれぞれの発達を考慮して遊具の配置やコーナ等生活と遊びに応じて工夫されると良いでしょう。

・子どもたち一人一人のロッカーとしてレターケースを使用し、個人の引出しとして靴下、帽子、タオルなどが仕分けができるような工夫や手洗い鉢には正しい手洗いの洗い方を表示する等分かり易く自然に身につくように配慮しています。子ども自身が見通しをもって必要な生活習慣が身につくように環境の整備援助をしています。

・屋上園庭を利用し野菜の栽培や季節の花を植える等、身近な自然と触れ合う工夫をし、野菜の収穫は食育に繋げています。自然の少ない環境の中、近隣の公園を利用して戸外遊びを確保しています。オープンスペースの保育の為、歌や表現遊びなどクラス毎に活動の時間の使い方を工夫し、子ども一人一人の考えや思いを受け止めながら友達と共同して活動できるよう援助しています

評価分類	評価項目	通番	評　価　細　目		評価結果	
					自己評価	第三者評価
A－１ 保育内容	A－１－（２） 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	51	⑤	乳児保育（０歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	B	A
		52	⑥	３歳未満児（１・２歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	B	B
		53	⑦	３歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	B	B
		54	⑧	障害のある子どもが安心して生活でき喜んで遊べる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	B	B
		55	⑨	長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	B	B
		56	⑩	小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	B	A

［自由記述欄］

・乳児クラスは担当制保育を行う中で子ども一人一人の関わりを大切にし、愛着関係を持った保育を行っています。子ども一人一人に丁寧に関わりスキンシップを大切にし、一人一人の発達に応じて優しく語り掛け情緒の安定を図りながら、愛情豊かで応答的な関わりを心がけています。個別計画を立案し家庭と密接に連携し、日々の保育は連絡帳や送迎時に詳しく伝えています。また、乳児健診を年４回行うなどを一人一人の発達や健康にも留意しています。

・子ども一人一人が自発的に遊べるよう環境構成を工夫し子どもが「自分で」という自我のめばえに寄り添った関わりや言葉がけを心掛け自分でやりたい気持ちを尊重しています。朝夕合同保育を行っているので探索活動が十分行えるよう環境を整備されると良いでしょう。

・集団の中でも子ども一人一人の気持ちを大切にし、やる気を引き出す活動を多く取り入れ、できた時は大いにほめ自信に繋がるような保育をしています。４、５歳児で活動する機会も多いですが、５歳児は発達に応じた取り組みの中で小学校への移行がスムーズに行えるようオープンスペースの保育室で集団での関わりを大切にしながら、一人一人がくつろいだ落ち着ける場所や環境を整備されると良いでしょう。

・支援の必要な子どもへの保育は専門機関などと連携を取り、「個別計画」を作成し保護者と情報を共有していますが、保護者全体には支援の必要な子どもの保育に関する情報を伝える取り組みまでには至っていません。

・長時間保育は合同保育で行っているので、遊びの内容によっては環境を用意する時落ち着いて過ごせるよう配慮し、ゆったり過ごせるよう工夫はしています。今後は、指導計画にも長時間保育について記載することが望まれます。

・就学前の小学校の先生に来園してもらい子どもの様子について引継ぎしたり、半日入学に行くなど連携を取っています。
保護者には就学に向けて学習会をする等就学に向けて見通しの持てる機会を設けています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目		評価結果 自己評価	評価結果 第三者評価
A－1 保育内容	A－1－（3） 健康管理	57	①	子どもの健康管理を適切に行っている。	A	B
		58	②	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	B	A
		59	③	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	A	A
	A－1－（4） 食事	60	①	食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	B	A
		61	②	子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	A	A

［自由記述欄］

・「保健年間計画」に基づき、一人一人の子どもの健康状態、発育発達状態に関わる必要な情報は職員で共有しています。乳幼児突然死症候群に関して取り組みは行っていますが、今後は、０歳クラスは５分毎、１、２歳クラスは１０分以内毎に午睡チェックを行い、記録に残しＳＩＤＳ防止をされると良いでしょう。

・年２回の内科健診、年４回の乳児健診、尿検査は全クラス、歯科健診を２歳クラスから耳鼻科健診、眼科健診は３歳クラスから年１回実施しています。受診や治療が必要な場合は、治療するまで健診を指導しています。

・アレルギー対応マニュアルに沿って月に一度保護者、園長、主任、担任保育士、給食担当者でアレルギー会議を行い事故防止に努めています。医師による診断を受け毎日献立でアレルギーチェックを行い、給食で確認、誤食防止に食札とトレーを使用し除去食を提供しています。

・季節の旬の食材を行事食に取り入れ、給食担当者が子どもの食事の様子を見に行き喫食状況を把握し、残食のある場合は記録に残し、次の献立に反映しています。誕生会には誕生月の子どもの保護者を招待し、子どもと一緒に行事食を楽しんでいます。

・「みんながおかわりしたがる園で大人気の給食レシピ」を本にして２０１９年１２月に発刊しています。子どもたちが食を通じて心身共に豊かに成長するように工夫を凝らした給食とおやつを心を込めて手作りしています。美味しい工夫がいっぱいの給食の中から苦手な子どもの多い食材も調理の工夫によって、驚くほど子どもの好みの味に変化します。

A－2　子育て支援

評価分類	評価項目	通番	評価細目		評価結果 自己評価	評価結果 第三者評価
A－2 子育て支援	A－2－（1） 家庭との緊密な連携	62	①	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	A	A
	A－2－（2） 保護者の支援	63	①	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	A	A
		64	②	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び 虐待の予防に努めている。	B	B
	A－3－（1） 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	65	①	保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	B	B

［自由記述欄］

・０～５歳クラスは毎日連絡ノートを記入し、一日の保育の内容や子どもの体調、喫食状況など丁寧に伝えて家庭と連携を密接にとるようにしています。「連絡ノート」やクラスごとの「一日の様子」を記入することで家庭と連携を図っています。「園だより」「クラスだより」「給食だより」「献立」を毎月配布し、保育参観、クラス懇談、個人懇談、また、行事の後のアンケートなど利用し、子どもの様子について保護者と情報を共有しています。

・日々の送迎時に保護者とコミュニケーションをとり信頼関係を築いています。個人懇談や日々の関わりに加え、相談窓口を設け相談、支援、援助する体制をとっています。

・虐待防止マニュアルを整備し、早期発見、早期対応に努めています。今後は、マニュアルに基づく職員研修を実施する必要があります。

・日々の保育の評価・反省を行い振り返りや保育の向上に繋げていますが、職員同士の話し合いまでには至っていません。園全体のスキルアップのためにも今後は、園内研修で学び合い園全体の自己評価に繋げ定期的に組織として継続して取り組まれると良いでしょう。